

第1週 防災を題材にした「道徳の時間」を全学級で

1 学年読み物資料

どんどん忘れていく自分が大嫌いです。

震災のあった日のことは今でもよく覚えています。小学校の卒業式を間近に控えた大雪の降った日のことでした。まるで旅客船が転覆するような激しく大きい揺れ、友達の叫び声泣き声、まだ小学6年生でしたがあのときほど死を身近に感じたことはありません。怖くて震えが止まらなかったのも覚えています。幸い私の住む地域は内陸でしたので津波の被害は免れました。しかし停電していたために沿岸部での津波の被害をこの目で確認できたのは震災発生から1週間も後のことでした。友達が津波で亡くなりました。大好きな親戚が被爆しました。

あのときは私も死にたくなるくらい辛かったのに、今では痛みも薄れ、記憶も薄れ、声も忘れ、不自由なく毎日を過ごしています。そんな自分が大嫌いです。どんどん忘れていく自分が大嫌いです。あのときは食事やお風呂だっままならなかったのに。必死に被災地を思って毎日生きていたのに。メディアも嫌いです。風化してしまったのはメディアにも責任はあるのに、忘れさせないためにメディアがどうにかしてくれなきゃ私たちはなす術もないのに。そういうことを思う夜は眠れなくなります。喉の奥が詰まったかのように苦しくて仕方なくなります。でも私たちは生きねばなりません。

～中略～

私は将来精神科医になることが夢です。亡くなってしまった親戚や友達のためにも私は一瞬一秒も無駄にできません。だからどうか、みなさんも。あの日のことを忘れないでほしい。日本人の心の美しさを誇ってほしい。助け合ったことをこれからも伝え続けてほしい。忘れてはいけないのだ。絶対に、絶対に、絶対に、忘れてはいけない。

ゆあ 宮城県 16歳 女

◆自然災害は避けては通れない。しかし、そのあとのように元通りにしていくか、自分にできることをするか、それを考えることができるか、それで人の在り方は変わってくる。みんなでやればどんなことでも乗り越えられると思う。

◆地震の様な自然災害はいつ起きてもおかしいものではありません。被災すれば心も暗く、希望も消えてしまうと思います。でもその中で、みんなが協力し、助け合うことが大切になってくることが分かりました。私も人のために、自分が出来ることをしたいです。



◆毎日当たり前のように学校へ行き、食事をしたり勉強したりを繰り返しているけど、必ずしもそれが当たり前ではないのだなと、資料を読んで感じました。そう思ったら、1日1日大切に生きていかなければいけないなと思います。これから大人になって、大きな災害が起こったとき、誰かのために何かを守れるような人になりたいです。



第2週 全教科で防災学習を～片山防災アカデミー～

「災害時に役立つ英会話」(英語・高寄)
海外で災害に見舞われた、その時あなたははどうする!?この授業を受ければそんな問題も解決。



「関数と自然災害」(数学・羽根、濱崎)
土石流や台風風の風速や風圧を関数で見つめ災害の恐ろしさを数字で実感します。



◆数学の授業後の生徒のふりかえりより◆

「災害には数学色々使われているということが分かりました。今日の問題は難しかったけど、今までに習った問題を活用した問題でした。今日は大雨に関することだったので、また他のことについて考えてみたいです」
「防災の時に数学は使えることが分かりました。これからも数学を活用していきたいところを探してみたいです」

「枕崎台風と呉市」(社会・胡谷)
昭和20年の枕崎台風が呉の町に残した災害の記録に学びます。



「自然災害を科学する」(理科・高橋、大賀)
災害が発生するメカニズムを正しく理解することが防災の第一歩です。



◆社会の授業後の生徒のふりかえりより◆

「戦後間もないのに大型の台風が来るとは大変だったと思う。やはり自然災害というのはいつ起こるか分からない。そのために準備するのは難しいが、いつ来ても大丈夫なように、日頃から避難の準備や心の準備が必要なのではないかなと思った」
「枕崎台風というのは私が生まれる前のことだったので初耳でした。過去のことだけど、呉の町で実際にあったことなので、亡くなった方々のために忘れずに生きていきたいです」

「未来へつなぐメッセージ」(音楽・小平)
東日本大震災からの復興を願う楽曲の鑑賞を通して、防災について学習していきます。



未来へつなぐメッセージ

作詞 作曲: 多田邦夫 編曲: 米田浩徳

あの日ヒカリが闇に消えるのを見たら
全て飲み込んでしまいたいような夜を見たら
みんなも同じ空を飛んで見てもかかって涙が溢れる
誰だって強くないよ 一人きりじゃ笑えないよ
当たり前のように生きてくれていると
その強さ忘れたいよ その涙も忘れたいよ
だからこの手と手を繋いで

未来へのニュージック 七色のイメージ
描いていこう僕らの世界を
未来へつなぐメッセージ
今僕らは生きている そう僕らは生きている

愛を寄せ合いそこに小さな木を植えよう
ずっと待っていても美しい花をもう一度咲かせたいから
災えられる未来を築いていく力を希望に重ねて

誰だって忘れたいよ でも忘れちゃいけないよ
当たり前のような日常にありたいよ
この傷は消えないけれど この傷も自分だから
目一杯抱きしめてあげたい

未来へのニュージック 七色のイメージ
描いていこう僕らの世界を
未来へつなぐメッセージ
今僕らは生きている そう僕らは生きている
未来へ 届け!!

- ◆体育で防災について学びました。足をけがしている人にはどう対応するかなどを学びました。一番印象に残っているのは、ジャージを活用して担架を作って人を運ぶことです。意外にも丈夫で驚きました。災害時には、学んだことを生かしたいです。
- ◆英語で、国語でおこなった「やさしい日本語」を英語に直しました。難しかったけれど、私たちでも言える言葉もありました。もっと知りたいです。
- ◆音楽で「未来へつなぐメッセージ」という曲を聞きました。被災者の思いや言葉をもとに作られたそうです。すごくいい歌でした。
- ◆社会で防災のことについて学びました。枕崎台風という台風が、戦後まもなく来て、呉市に大きな爪あとを残したそうです。呉の過去は、私の知らないことばかりです。

「災害時に役立つ英会話」(英語・高寄)
海外で災害に見舞われた、その時あなたははどうする!?この授業を受ければそんな問題も解決。



「やさしい日本語」(国語・上野)
災害時の報道や情報はとても大切です。しかし、小さな子どもや外国の人たちには難しく感じて分らないことがあります。誰にも分かるやさしい日本語にならしてみよう。



◆国語の授業後の生徒のふりかえりより◆

「『やさしい日本語』は人の思いやりから出されたものだから、温かい言葉だなと思いました。とても難しかったけど、自分たちらしく変えることができました」
「もし私が外国人だったら『やさしい日本語』は命を助けてくれる物だと思いました。少し簡単にしてもらえるとすごく助かります。みんなの発表もすごかったです。私だけじゃ考えられなかったと思います」

第3週 校内防災ポスター優秀作品をちぎり絵に



- ◆ 今日ちぎり絵をしました。1枚1枚を見たら何かよく分からないけど、4枚つなげると「命!」という文字があらわれて少し感動しました。
- ◆ 今日1時間目にちぎり絵をしました。とてもなつかしかったです。全校生徒で1つの作品をつくりあげることの楽しさを味わいたと思います。
- ◆ 今日は学活でちぎり絵をつくりました。細かい作業が好きなので楽しかったです。きれいに完成してほしいです。

片山中防災月間～第2週の取組～

片山中学校防災アカデミー

～全教科で防災学習を～

「災害時に役立つ英会話」(英語・高寄)
海外で災害に見舞われた、その時あなたははどうする!? この授業を受ければそんな問題も解決します。
災害時に英語で助けを求めることが出来ますか? とっさの場面のその一言が自分の命や身近な人の命を救います! オリバー先生と一緒に学びましょう。

「ある警察官の手記」(国語・佐藤)
東日本大震災で救援活動に従事した警察官の手記を読み人物の心情を考えます
救援活動に従事した警察官の手記。書き手である警察官や手記に登場してくる人物の心情を丁寧に読みとり、それらの表現の仕方を確認しながら深めていきます。

「自然災害を科学する」(理科・高橋、大賀)
災害が発生するメカニズムを科学的に正しく理解することが防災の第一歩なのです
地震の2つの型を理解する。「エネルギー保存の観点から津波のスピードと大きさを考える。科学的思考から災害を徹底的に検証しよう。」

「枕崎台風」(社会・胡谷)
昭和20年の枕崎台風が興の町に残した災害の記録に学びます。
枕崎台風による呉市の被害の実態を知り、その記憶を後世に伝えようとお地蔵様をつくった人々に思いを馳せるとともに、これから起こる災害に備えることの大切さを確認する。

「手回し発電ラジオ・ライト」(技術・岡)
技術ではこれを5時間かけて製作してきました。
災害時の停電にはこの1台が頼りになります。ハンドルを回して発電することで使えるラジオ。しかも懐中電灯にもなるすぐれものです!

「担架ありますか!？」(保健体育・奥村、小櫻)
災害時に必要不可欠な担架をその場にあるもので作ります。
災害時、傷病者を安全な場所に運ぶときに身近な物を利用して人を運ぶ方法について学習します。

「開数と自然災害」(数学・羽根、濱崎)
土石流や台風の風速や風圧を開数で見つめ災害の恐ろしさを数字で実感します。
土石流の速さが分かれば、どれだけの時間で自分の家に到達するの分かります。数学が自分の命や家族の命を救うのです!!

「やさしい日本語」(国語・上野)
災害時の情報を小さな子どもや外国人でも分かる日本語におおしてみよう。
災害時の報道や警報などの情報はとても大切なものです。でも、小さな子どもや外国人には難しくよく分からないことがあります。誰にでも分かるやさしい日本語におおっていきます。

「防災ポスターを描く」(美術・中原)
すでに夏休みの課題として3年生が描きました。最優秀作品を防災月間第3週に全校生徒でちぎり絵に仕上げましょう!
防災ポスターを描く

「未来へつなぐメッセージ」(音楽・小平)
東日本大震災の復興を願う楽曲の鑑賞を通して防災について学習していきます。
題材とした「未来へつなぐメッセージ」は、震災復興を願う「未来へつなぐプロジェクト～音楽の力～」の曲です。歌詞の意味や作曲者の思いを感じ取りながら鑑賞していきます。

「日々の家庭生活で考える防災」(家庭科・迫田、水本)
日々の生活の中でどんな備えが大切かを考えていきます。
自分・家族・地域を守るために、日頃からどんな備えが大切なのか、地域の人たちとの関わりなど、日常生活での防災について考えていきます。

「A Girl Saved Many Lives」(英語・出水谷)
2004年12月26日スマトラ沖地震で実際にあった英語の読み物で学習していきます。
自分たちよりも若い少女がなぜ多くの命を救うことができたのか? 私たちが今こうして学校で学んでいることの意味を見つめ直すきっかけになる読み物です。



校内防災ポスター 優秀作品